

体 育

1 体育科の学習指導の改善

(1) 学習指導の改善の視点

体育科は、体育・スポーツの能力に優れ、これに興味・関心のある生徒の能力を一層伸長し、高度な運動技能を習得できるようにするとともに、体育・スポーツの振興発展に寄与することのできる人間の育成を目指して設定された教科であることから、学習指導の際には、次のような体育科の改訂内容を踏まえることが必要である。

ア 各科目に配当する単位数

各科目の標準単位数は、設置者が定めているが、各科目の単位数は、「その内容の習熟を図ることができるように考慮する。」ことを踏まえて配当する必要がある。

イ 内容及び内容の取扱いの改訂を踏まえる

(ア) 運動の取り上げ方の弾力化を図ること。

(イ) 運動の学び方を重視すること。

(ウ) 心と体を一体としてとらえる観点を重視すること。

(エ) 「体づくり運動」は、示している内容のすべての事項を履修させること。

(オ) 個に応じた指導は、基礎・基本の定着を図り、さらに一人一人の能力・適性等に応じて自己に適した目標や課題をもち、練習等を行う中で、「個性」の伸長を図るものである。したがって「個に合わせた」指導の工夫と個のもつ良さを生かす「個を伸ばす」指導の工夫を行うこと。

(カ) 体力の向上については、それぞれの運動の特性に触れるために必要な体力を生徒自ら高めることができるように留意することが大切である。

(キ) 「体育理論」では、運動の実践と理論の一体化や「運動の学び方」との関連を図ることが大切である。

(2) 効果的な学習指導

学習指導を効果的に行うために、次の内容に留意することが必要である。

ア 技能の内容、態度の内容、学び方の内容を踏まえる

(ア) 技能の内容

「体づくり運動」は「実践の内容」、「スポーツⅠ」から「ダンス」までは、「技能に関する内容」とされており、それぞれの運動の特性に基づく指導が大切である。

(イ) 態度の内容

主として公正、協力、責任などの社会的な態度と健康・安全に関する態度を身に付けさせることが大切である。

(ウ) 学び方の内容

「スポーツⅠ」、「スポーツⅡ」、「スポーツⅢ」及び「ダンス」の各科目の目標に運動の学び方に関する内容を加えて改善が図られていることから、それぞれの運動の特性を踏まえるとともに、学習段階等に応じて学び方を身に付けさせることが大切である。

イ 体ほぐしの運動を重視する

「体育理論」の「体ほぐしの意義と行い方」の学習や「スポーツⅠ」、「スポーツⅡ」、「スポーツⅢ」及び「ダンス」と関連付けながら行うようにする。また、「保健」における精神の健康などの内容と関連を図ることも大切である。

ウ 運動の特性に触れるために必要な体力を高める

「スポーツⅠ」、「スポーツⅡ」、「スポーツⅢ」、「ダンス」及び「野外活動」の指導に当たっては、それぞれの運動の特性に触れるために必要な体力を生徒自ら高めるように留意することが大切である。

2 評価の工夫

評価にあたっては、評価の観点や評価を指導に生かすということを教員間で共通理解を図りながら、計画、実践、評価という一連の活動（指導と評価の一体化）が繰り返される中で目標の実現が図られるようにすることが必要である。

(1) 評価の基本的な考え方

評価にあたっては、特に次の事項に留意する必要がある。

ア 「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「運動の技能」、「知識・理解」の4つの観点は、それぞれ独立させて個別にとらえるのではなく、相互に関連し、補完的に働き合うようにすること。

イ 評定については、4つの観点を十分踏まえ、評価から評定へどのように結び付けていくかを明確にすること。

ウ 教員の観察力や分析力などを高め、多様な評価方法を工夫改善すること。

(2) 体育科における評価の観点

観 点	趣 旨
関心・意欲・態度	体育・スポーツに関する諸課題に関心を持ち、自ら進んで解決しようとする。また、運動の特性に応じた実践に必要な態度を身に付け、積極的に取り組もうとする。
思 考 ・ 判 断	高度な運動技能の習得や体育・スポーツに関する諸課題の解決を目指して、運動の合理的な行い方や計画的な活動の仕方を考え、工夫している。
運 動 の 技 能	高い水準で競技し、運動をする楽しさや喜びを深く味わうために必要な高度な運動技能や運動の合理的な実践の仕方を身に付けている。
知 識 ・ 理 解	変化する現代社会における体育・スポーツの意義や必要性を理解するとともに、運動の特性と合理的で安全な行い方及び体育・スポーツの運営管理などの基礎的事項を理解し、知識を身に付けている。